

# ★大間原発★間違いない！

## 大間原発 Oh, my god!

「NNAA 設立と記念講演会」へのメッセージ

2012 年 11 月 10 日

### 函館の緊 9 事態：大間原発工事再開 <止めなくてはならない 9 の理由>

10 月 1 日に電源開発は約 4 割しか完成していない大間原発の工事を再開した。福島第一原発で起きたような事故が大間原発で起きたならば、23km しか離れていない函館は終わりだ。そして、核燃料サイクルの試金石になるこの原発の建設の有無は函館の、東北の、北海道の、日本の、いや人類の未来をも左右する建築物なのだ。大間原発は「分かれ道」。大間原発建設を完全に止めて、正しい道を歩もう。函館は今、緊 9 事態にあるのだ。下記にこの原発を止めなくてはならない 9 の理由を述べる。

1. **フル MOX 燃料を使用！** 大間原発が開始すれば、世界一危険な原発になる。世界で初めてプルトニウムとウランを混合した MOX 燃料を 100% 使う。事故が起きる確率は大きく、事故が起きた場合、深刻な被害をもたらす。
2. **巨大な活断層が存在！** 大間原発付近の海底に長大な活断層が存在する可能性のあることが、変動地形学者によって指摘されている。地震が起きればマグニチュード 7 クラスになる。
3. **火山帯のど真ん中！** 大間原発は東日本火山帯の上に建設されている。活火山が活動した場合の降灰や津波などの影響が懸念される。
4. **函館から 23 キロ！** 大間原発から函館市までは津軽海峡を隔ててわずか 23 キロしかない。福島第一原発事故のような事故が起きれば、函館は終わりだ。さらに、大間原発の 50km 圏内の人口は、青森側が 9 万人、に対して北海道側は 37 万人だ。にもかかわらず電源開発は北海道で一度も住民に対しての説明会を開いていない。
5. **行き場のない MOX 燃料廃棄物！**  
使用済み MOX 燃料の行き場は決まっていない。そのまま大間町に置いておかれる危険性もある。猛毒の放射能廃棄物を今後、何万年も保管し、何百世代先の人間が私達のゴミに脅えて暮らさなくてはならない事になるのだ。
6. **公海である津軽海峡から大間原発まではたったの 3 海里** 津軽海峡という公海に面した大間原発は通常の 12 海里 (22km) でなく、たったの 3 海里 (5.6km) しかなく、テロの絶好の標的になりうるのだ。このような場所は日本に 5 か所しかないのだ。
7. **核燃料サイクルを続ける理由** 大間原発が無ければ、六ヶ所村での使用済み核燃料再処理が不要となるのだ。
8. **原発事故は函館・北海道の観光に打撃** 函館は観光都市。福島第一原発の事故は海外からの観光客の激減に繋がった。原発事後がもたらす風況被害は経済活動に直撃する。
9. **大間原発建設は「革新的エネルギー・環境戦略」と矛盾！** 9 月に政府が発表したこの環境戦略では「原発の新増設はしない」「2030 年代に原発ゼロ」と発表しているが、大間原発建設はこの戦略と大きく矛盾している。

大間原発を STOP しなくてはならない理由はもっともっとある。日本の、アジアの脱原発の仲間よ、手おとりあい、皆で声高々と叫ぼう「大間原発大間違い！」と。

ピーター・ハウレット

NPO 南北海道自然エネルギープロジェクト代表理事  
& バイバイ大間原発はこだてウォーク呼びかけ人